



バケツビオトープで、生きものを呼び寄せよう！

ビオトープは、さまざまな生きものがくらす空間のことです。どこでも自由に置ける、バケツを利用した小さなビオトープを作ります。植物など、移動しにくい生きものは用意しないといけませんが、トンボやカエルは、やがてやって来ます。そうした生きものをつなぐを観察してみましょう。

用意するもの



バケツ

*大きくて丈夫なものを選ぶ。



植木鉢

*生きもののかくれ家や、日かげを作るため、素焼きのものを割って使う。



水

*水道水を2〜3日くみ置きして、田んぼや池の水を少し混ぜて日光に当てておく。



水草はどうするの？

カエルやトンボは、まわりの環境からやって来て、ビオトープにすみつくことができます。しかし、水草や魚は移動できないので、あらかじめ入れておきます。ため池や田んぼなど、モデルになるビオトープを決めて、そこにあるものを植えましょう。ただし、田んぼで勝手に水草を採集するのはルール違反です。必ず所有者の許可をもらいましょう。ホームセンターなどで、ビオトープ用の水草が売られていますが、外来種（外来生物）は使わないようにしましょう。



ため池や田んぼに生える在来植物のヒメシロアサザ。

作り方



植木鉢のかげらを組み合わせる。

植木鉢のかげらを入れるだけで、バケツの中に生きもののかくれ家や日かげを作ることができる。

バケツビオトープ

- ①バケツの底に砂と土をそれぞれ1cmほどの厚さで入れます。
- ②割った植木鉢のかげらを組み合わせて、すき間を作ります。
- ③水草と、くみ置きしておいた水を入れて、バケツビオトープの完成。水底に根っこをはる水草は、どろに牛乳パックのバルブを混ぜ、目のあらいあみで包んでしずめます。



バルブを混ぜると、どろが流れ出なくなるよ！

やって来た生きもの

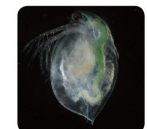
バケツビオトープが完成したら、時々水を足すぐらいにして、あとは自然にまかせましょう。時間はかかりますが、いずれ生きものがやって来ます。



ニホンアマガエル



ウスバキトンボ



ミジンコのなかま



ウスバキトンボの幼虫（ヤゴ）



オオシオカラトンボ

バケツビオトープの変化を観察&記録しよう

バケツビオトープに生きものがやって来るということは、そこが身近な自然とつながっていることを意味します。家にいながらこのつながりを観察できるのが、バケツビオトープです。日びの変化を記録しましょう。



バケツビオトープの観察ノート。

バケツの中にちいさな自然をつくってみよう。水をはって植物を植えてやると、カエルやトンボなどたくさんの動物がやってきます。散歩しながら、身の回りを参考にし、どのような場所にするかを考えてみましょう。(小川)

◆自然を調べるプロのスゴ技にチャレンジ！ 特別配信版（期間限定）／少年写真新聞社『100円グッズと身近な道具でできる！博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう ②観察と調査』小川誠・奥山清市・矢野真志／共著（西日本自然誌系博物館ネットワーク）p.16-17より ※このシートは、非商業的な利用に限り使用を許諾します。 ©小川誠・奥山清市・矢野真志